

【氏名】徐玉子

【所属】(助成決定時)京都大学大学院人間・環境学研究科

【研究題目】女性の移住「性労働」をめぐる人類学的研究  
— 韓国の米軍基地村のフィリピン人「エンターテイナー」を中心に—

#### 【研究の目的】

グローバル化は、もの、情報、思想、資本などの国際的な移動とともに、生身の人間の移動も加速化し、国民国家の境界を行き来しながら移住する新たな生活様式を生み出した。国家間の政治経済的な格差の間を移動しながら新しい生活機会を求めて移住する人々の流れの中で、労働条件、人権、市民権などに関する諸問題が台頭している。特に女性は性的身体を資源として境界を越える場合が多いため、より深刻な問題に直面している。本研究の目的は、韓国京畿道の米軍基地に隣接する村(以下基地村)におけるフィリピン人女性「エンターテイナー」の生活経験に密着したフィールド調査をもとに、女性の立場から、売春を含む性産業での出稼ぎの実態を捉えるとともに、女性のセクシュアリティが国境を越えて移動しながら新たな種類の商品になっていくメカニズムに、どのような力が作動するのかを考察することである。

#### 【研究の内容・方法】

調査者が 2005 年 3 月から調査と NGO 団体での活動を続けている韓国京畿道の米軍基地村を中心に集中的な調査を行った後、彼女たちの帰郷に寄り添って本国のフィリピンへと調査の範囲を広げた。フィールド調査は、インタビューを中心として、アンケート、参与観察などを伴うものである。その結果、以下のような彼女たちの生活世界を明らかにすることができた。

移住動機 移住動機に関する語りは経済的要因(貧困)と文化的要因(家族扶養の義務)が多数を占める。しかし、故郷で経験する抑圧的な環境や家父長制による暴力などから逃れるためであるとか、未来に対して肯定的に思考し、それを実現するためであるなどの、新たな文化的要因やより個人的な要因も十分伺える。

雇用構造と仕事の形態 女性は韓国のプロモーション会社と雇用契約を結び、その会社がクラブのオーナーと契約を結んでいる。オーナーは女性たちの給料をその会社に支払い、女性は総額の1/3(約400USドル)を受け取る。残りは韓国とフィリピンの斡旋業者のコミッションになる。クラブでの主な仕事は、①接客しながらジュースを売る、②ステージでセクシー・ダンスを踊る、③お客とナイト・アウト(売春)をすることである。女性はジュースの売り上げに対しては20%、ナイト・アウトに対しては30%を受け取る。

抵抗あるいは交渉 実際クラブでの仕事の内容が契約と異なっても女性たちは現実を受容し適応するために努める。しかし、現実をそのまま受動的に受け入れるのではなく、つねに交渉を行う。彼女たちはエンターテイナーとしてのアイデンティティを強調しながらナイト・アウトを拒否したりする。ナイト・アウトの場面でも、その行為が軍によって禁じられているものであることを思い起こさせながら無理な行動を取らせないようにする。オーナーが悪徳な場合マネージャに頼んでほかのクラブに移してもらったり、逃げ

出して公的機関に被害を訴えたりもする。彼女たちとのインタビューによく気を配ると、このような例は数え切れないほどである。

ネットワーク作りと維持 彼女たちは劣悪な環境から自分を守りながら生き抜くためにさまざまなネットワークを活用している。移住先のフィリピン人グループだけでなく、故郷の家族や親族はもちろん、韓国人の村人やプロテスタント教会の人々、そして、お客である米兵ともネットワークを張り巡らせている。

#### 【結論・考察】

第3世界から韓国の米軍基地村に「エンターテイナー」として流入した女性たちの主たる仕事は米兵を相手に性的サービスを提供することであり、多くの場合売買春との直接的なつながりを持つ。そのために彼女たちの移住は直ちに「国際人身売買」の言説と結びついてしまい、彼女たちを無力で可哀想な犠牲者としてまなざす視線が正当化されがちである。本研究は、しかし、彼女たちの生活世界に密着し、彼女たちの声に耳を傾けるという作業から、さまざまな権力構造の中で一人一人の女性自身が行う選択や交渉などを明らかにすることができた。それによって、彼女たちが単なる社会構造の犠牲者として説明されるわけではなく、むしろいまままで無視されてきた、自らの歴史を作っていく多様なエイジェントである側面が浮き彫りにされた。